

下総龍角寺跡(成田市)

JR成田線の下総松崎駅(駅員がたった一人だけの駅です)



房総のむら方面へ2.5km歩く





関東ふれあいの道

古墳をたずねるみち

このコースは、ここ下総松崎駅から龍正院（下総町）まで15kmのコースです。

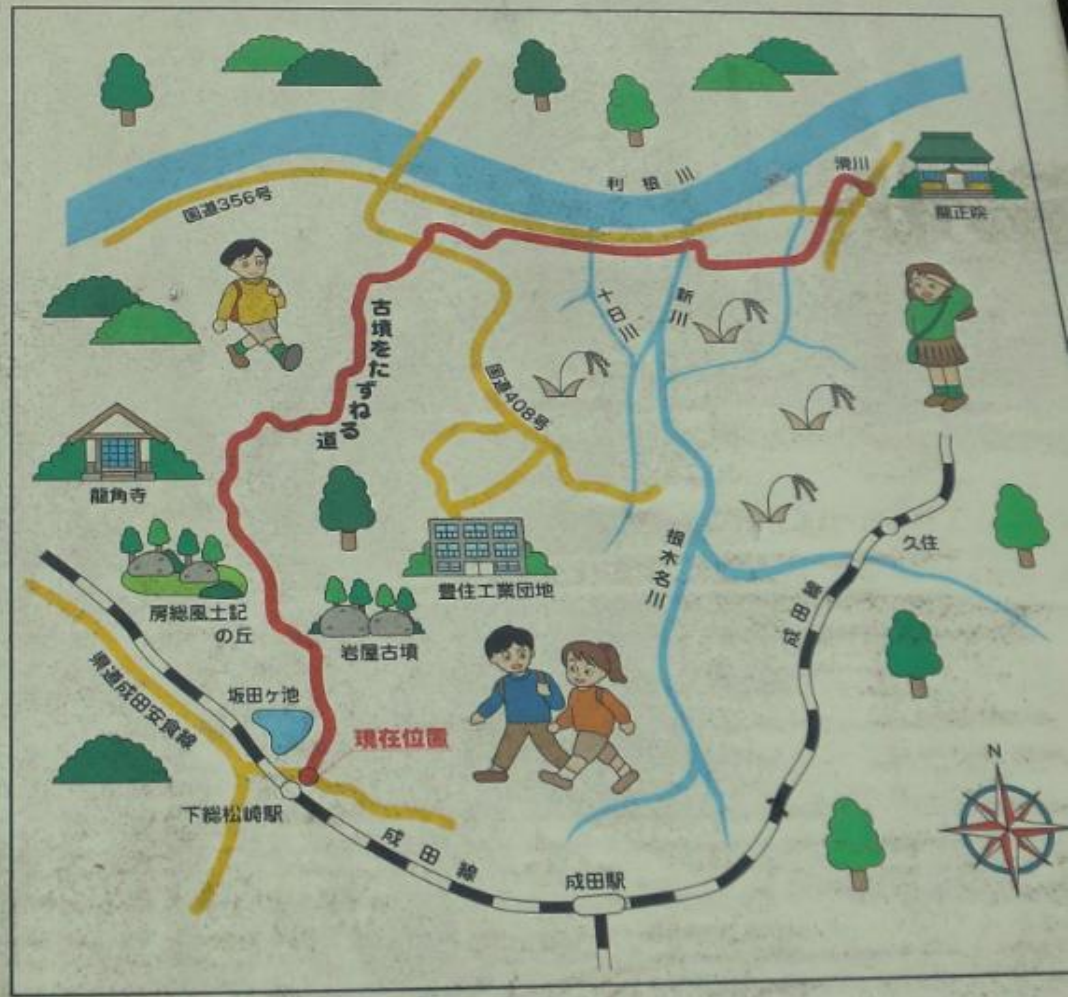
下総松崎駅から「岩屋古墳」「房総風土記の丘」「龍角寺」を見ながら利根川へ抜けていき、龍正院へと到達します。

このコースの見所は、古墳群の密集する台地や、「房総風土記の丘」の中にある千葉県内から集めた古民家などです

古墳をたずねるみち（15km）

下総松崎駅 $\frac{2.5\text{km}}$ 房総風土記の丘 $\frac{1.1\text{km}}$

龍角寺 $\frac{11.4\text{km}}$ 龍正院





関東ふれあいの道

水鳥のみち

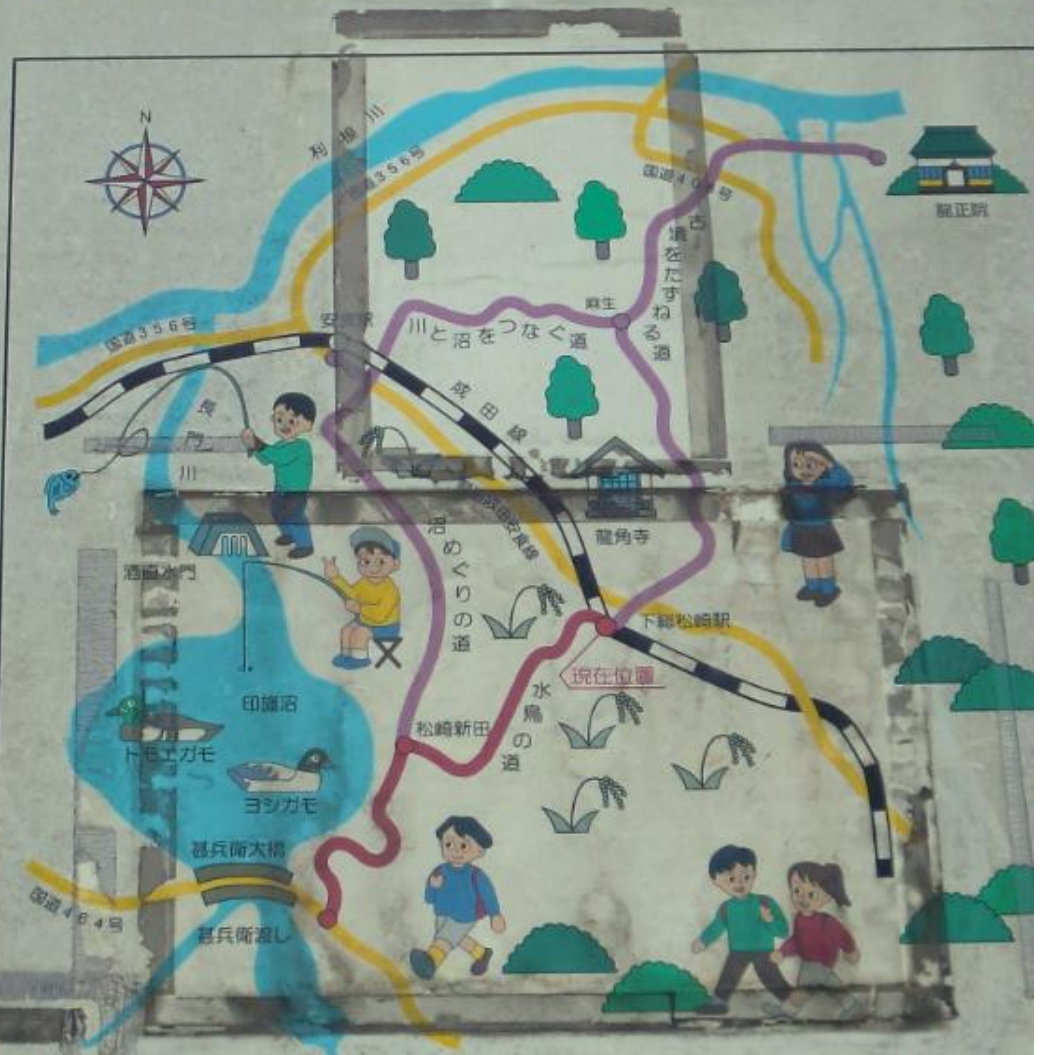
ここ下総松崎駅は、田園地帯を通り、印旛沼の堤を沿って「甚兵衛渡し」に入る「水鳥のみち」の起点に位置します。このコースの見どころは、ヨシガモ、トモエガモなど珍しい水鳥が見られ、鳥類の観察に適している印旛沼があります。

この印旛沼は、四季を通してハイキングや釣りなどに訪ねる人々が多く、休養地としても広く親しまれています。又、終点の「甚兵衛渡し」は昔の渡し場として名が知られています。

水鳥のみち (5.6 km)

起点—成田市松崎 下総松崎駅

終点—成田市北須賀 (甚兵衛渡し)







坂田ヶ池総合公園を通過して房総のむらの「風土記の丘資料館」を目指す



その前に直近にあるという「上福田岩屋古墳」に寄ってみました





前方の小高い所が古墳です













もとのコースに戻ります



「房総風土記の丘」として公園になっています







植物観察園もあります





房総風土記の丘の由来

房総風土記の丘は、全国有数の方墳として知られる岩屋古墳（史跡）をはじめとする竜角寺古墳群（約120基）と、白鳳仏で名高い竜角寺をとりまく緑豊かな自然環境の中につくられた県立博物館です。

中央部にある資料館のほか、重要文化財の建物や各種の植物観察園などがあり、全長5000Mほどの遊歩道を巡りながら、これらの施設を見学し、文化財に接することにより、房総の歴史と自然をじかに感ずることができるでしょう。

なお、風土記の丘という名称は、各地の様子を書いた「風土記」という昔の書物にちなんだものです。



旧学習院初等科正堂/重要文化財











101号古墳



竜角寺古墳群 第101号古墳

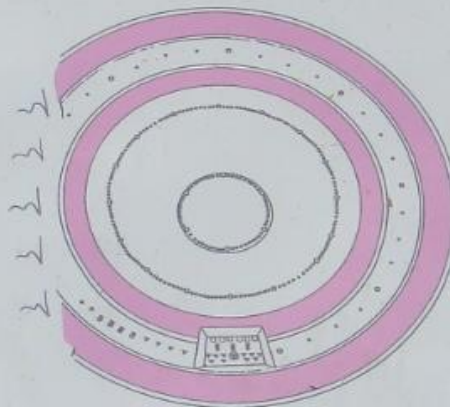
この古墳は印旛沼を臨む台地の先端部に造られています。当館が昭和59年～61年に保存整備の目的で発掘調査を行い、造られた当時の姿に平成2・3年度に復元整備し、平成4年度から一般公開しています。

調査の結果、6世紀前半に二重に周溝が巡らした円墳として造られ、遺体の収められた埋葬施設は墳頂部に木製の棺を埋めたもので、鉄製の刀（直刀）・鉄製の矢じり（鉄鏃）・馬の鞍などに装着する道具（馬具）などが副葬されていました。

また、墳頂部と墳丘の裾部には円筒埴輪や朝顔形埴輪が並び立てられていたことがわかり、二重に巡る周溝の中間にある土手（中提）とその一部にあった張り出し部には、それらに加えて家形埴輪、馬・鹿・犬・猪・水鳥で構成される動物埴輪や、男性（兵士を含む）・腕を擡げる女性、盾を持つ兵士の形象埴輪が列をなして立てられていたことが推測できました。

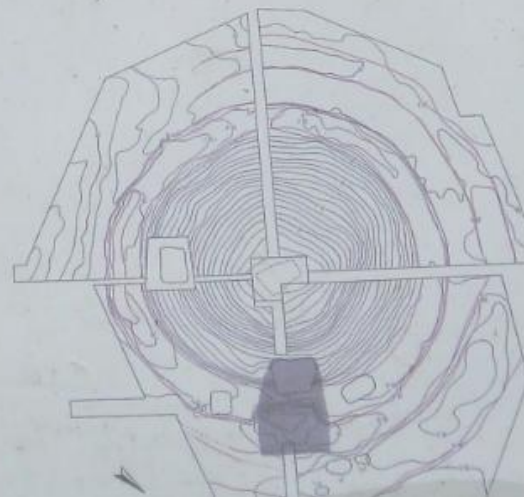
この古墳は、その後、周溝の中に箱式石棺などの別の埋蔵施設を設けた後、墳丘中絶に新たに箱式石棺の埋葬施設が設けられます。

更に6世紀末になると、墳丘の裾部分に新たな箱式石棺が設けられるとともに、二重周溝の内側の一部を埋めて張り出し部をつなくことにより古墳の形を変化させ、小規模な「造りだし」を待つ円墳としました。



築造当初（6世紀前半）の想定図

- ▽ 人物埴輪
- ⊙ 家形埴輪
- ◆ 動物埴輪
- 円筒埴輪
- 朝顔形埴輪



墳丘測量・発掘調査実測図

墳丘径（盛り土の直径）	24.1m
墳丘高（ ” の高さ）	3.6m
周溝外縁径（外側周溝の直径）	44.0m
改築後の全長（全体の規模（改築後））	30.5m









国史跡 龍角寺古墳群・岩屋古墳

いわやこふん りゅうかくじ ごうふん

岩屋古墳 (龍角寺105号墳)

時期/7世紀中頃 墳形/方墳 一辺/7.8m 高さ/13.2m 三段築成
埋葬施設/切石積横穴式石室東西2室 (具化石を含む軟質砂岩、天井一部が筑波山系片岩)

指定年月日 昭和16年1月27日

追加指定年月日 平成21年2月12日

古墳時代終末期の方墳としては、全国第1位の規模を誇ります。龍角寺古墳群中、最後の前方後円墳である浅間山古墳(龍角寺111号墳)に後続して築造されたと推定され、龍角寺の創建に係り、後の埴生郡司につながる印波国造一族の墓と推定されています。また、平成20年1月に行われた測量調査では、石室が開口する墳丘南側の崖面に、古墳築造時の土壌層を穿入路或いは古墳完成後の墓道、祭祀場に利用されたと考えられる舌状張出地形の存在が確認されました。

岩屋古墳の存在は古くから知られており、天正19年の「下総国埴生庄龍角寺之郷水帳」によれば、すでに岩屋が築かれていたことがわかります。また、龍角寺の七不思議のひとつとして、三ヶの岩屋の隠れ座頭の枕貸し伝説が伝えられています。

これまでは墳丘部のみが国史跡に指定されていましたが、龍角寺や埴生郡衙推定地など、古代国家形成期における東日本の景観を残す遺跡群の歴史的意義に鑑み、周辺地形を含む龍角寺古墳群・岩屋古墳として追加指定及び名称変更が決定され、現在最も広い面積の国史跡となりました。

学術調査委員会

田

※この調査は、文化支援・保存事業として、地域の協力で設置された。

前方が岩屋古墳/方墳







旧御子神家住宅/重要文化財



重
文 化 財

旧御子神家住宅

建築1779年（安永8年）

移築1973年（昭和48年）

御子神家は、安房郡丸山町で代々農業を営んできました。安房地方の民家のうち、直屋型の典型的なものです。座敷まわりに縁側をつけ、引違いの板戸に半間の明障子を用いています。

なお、建築当時の記録（普請帳）も残っていて、民家建築の歴史を知るうえで重要です。



旧平野家住宅/県指定文化財



県指定
有形文化財

旧平野家住宅

建築1751年（寛延4年）

移築1974年（昭和49年）

平野家は、富津市亀沢で江戸時代に名主を勤めてきた家柄です。

中央に27畳の広さの板の間をもつ大規模な住まいで、式台のついた玄関などに名主の生活がうかがわれます。

そそり立つような、大きい寄棟造りの屋根が特徴です。



周辺には古墳が幾多とあり、龍角寺古墳群と呼ばれています



84号墳



82号墳



81号墳



80号墳



55号墳



78号墳

「方墳の石室に使われた貝化石の石」とある





57号墳



瓢塚 41号墳石室

現在の成田ニュータウン内、加良部にあった古墳の石室です。

この古墳は、瓢塚古墳群48基のうちの1基で、開墾などで削られていましたが、昭和45年5月に発掘調査した結果、東西辺17.2m、南北辺20mの方墳でした。

この石室では、雲母片岩などの板石(18枚)を組合わせて、玄室と羨道マツライがつくられ、副葬品として須恵器、直刀、鉄鏡テツギなどが納められていました。終末期古墳の埋葬施設の一例です。



瓢塚41号墳平面図

竜角寺古墳群第108号古墳石室

昭和55年9月、県道、成田-安食線の建設
工事に関連して発掘調査された古墳の石室を
復元したものです。



復元平面図

この古墳は、古墳時代終末期の方墳ですが、
岩屋古墳をはじめ、同じ古墳群内の5基の方
墳との関係が注目されています。

石室内には副葬品はみられませんでした。が
東側周溝の土壌中から直刀一振と石室附近か
ら須恵器の壺、鉄鏝が出土しています。

やっと資料館に着きました





この瓦塔、瓦堂は千葉市谷津遺跡から出土したもの



瓦塔

瓦塔とは、お寺の五重塔などを模して作られた古代の焼き物です。

その用途は墓標説が有力でしたが、現在は瓦塔などを置いて、おのおののムラにお寺のような信仰の場を設けたという説が注目されています。



龍角寺の本尊 銅造薬師如来座像(東国に遺る白鳳仏)

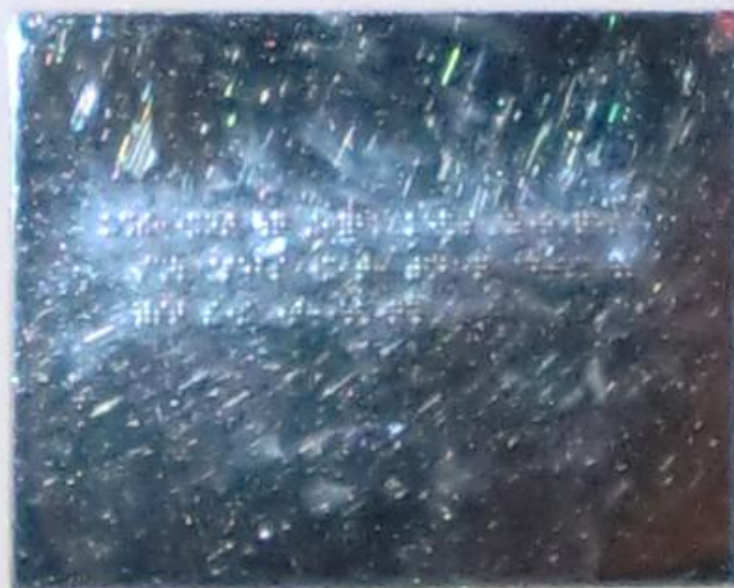


(写真提供:千葉県教育委員会)

山田寺の仏頭

昭和12年願福寺の床下から発見されましたが、もとは山田寺の本尊でした。

眼から鼻にかけて流れるような線と口もとに浮かべたおだやかなほほえみに白鳳時代の特色がよく表されています。



白鳳仏として有名な奈良県山田寺の薬師如来の仏頭模型で、龍角寺のものとほぼ同時期です。

龍角寺 — 古代の氏寺

7世紀後半に建てられた龍角寺は、東日本で最も古い寺院ですが、いまは金堂と塔の礎石跡を残すにすぎません。

岩屋古墳を築いた印旛地方の豪族が、畿内の有力者と結びついて仏教をいち早く取り入れ、その勢力を広げるために「一族の寺」を建てたものと思われる。



寺を建てる

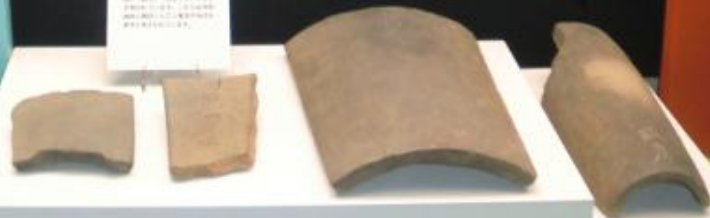
寺を建てるためには、土地の境界を定め、地盤を平らにし、柱を据えて土を積み、基礎として土の山を築きつくり、土を積み重ねて高さを調節して建てる。

「龍角寺」は、古くは古墳時代の末頃に建てられたとされるが、その後の歴史は不明である。



龍角寺出土の瓦片

龍角寺出土の瓦片は、古くは古墳時代の末頃に建てられたとされるが、その後の歴史は不明である。



龍角寺 — 古代の氏寺^{うじでら}

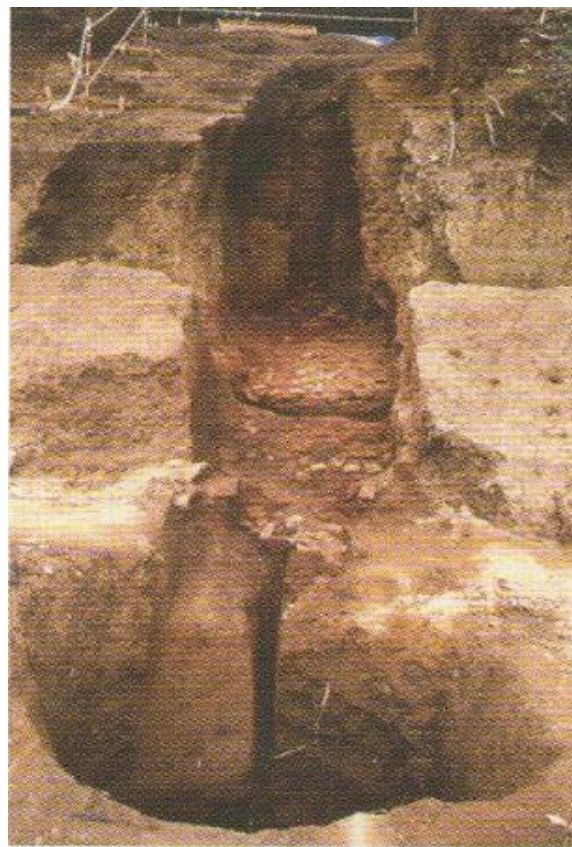
7世紀後半に建てられた龍角寺は、東日本で最も古い寺院ですが、いまは金堂と塔の礎石跡等を残すにすぎません。

岩屋古墳を築いた印旛地方の豪族が、畿内の有力者と結びついて仏教をいち早く取り入れ、その勢力を広げるために「一族の寺」を建てたものと思われます。

寺を建てる

寺を建てるためには、寺の場所を選び、地固めをし、瓦を焼く工人を招き、本尊としてまつる仏像をつくるなど莫大な財力と高度な技術が必要とします。

龍角寺には花崗岩製の塔心礎や白鳳時代につくられた銅造の薬師如来像が今も残されています。



(写真提供: 栄町教育委員会)

龍角寺瓦窯跡・五斗蒔瓦窯跡

龍角寺の屋根瓦を焼いた7世紀後半の窯跡です。この周辺の地名と考えられる「朝布(麻生)」「服止(羽鳥)」等とへら書きされた瓦がたくさん見つかりました。現在は埋め戻され、保存されています。

いよいよ龍角寺へ向かいます





この道の両サイドに古墳が散在します





67号墳



69号墳

古墳のいろいろ

このあたりは、毛角寺古墳群の中でも、特に古墳が密集している所です。これらの古墳は6世紀から7世紀ごろに造られたと考えられます。現在は埋まっていますが、周囲に空堀がめぐらされています。前方後円墳、円墳といった形や、その大きさ、前方後円墳の向きなどの違いに注意して見て下さい。これらの違いは古墳の造られた時代や、葬られた人の地位などを知る手がかりのひとつになります。

はく

白

ほう

鳳

どう

道

この道は、リョウカクジ竜角寺の正面から南へまっすぐにのびてきた道です。ここから北へ進むと、小さな谷を渡って、せんげんやま浅間山古墳を左に見ながら、約1kmで竜角寺に達します。

気をつけて歩いてみると、この道が、自然の地形を利用しないで、森や古墳群の間を、南北一直線に竜角寺に続いていることがわかります。白鳳時代（7世紀後半～8世紀初め）に竜角寺が建てられたときから使われていた道と考えられます。



75号墳

ここから更に龍角寺に向かう(あとでバスに乗るため、この場所にもう一度戻る)





浅間山古墳



今回の震災の影響からか、立ち入り禁止になっています

国史跡 龍角寺古墳群・岩屋古墳



せんげんやまこふん りゅうかくじ ごうふん
浅間山古墳（龍角寺111号墳）

時期/7世紀前半 墳形/前方後円墳 全長/77.6～78.0m
前方部/幅5.8m 高さ/7.2m 後円部/径5.2m、高さ8.0m 三段築成
埋葬施設/板石組横穴式石室（筑波山系片岩）

指定年月日 平成21年2月12日

龍角寺古墳群の中で最大、そして千葉県内でも最も新しいと考えられる前方後円墳です。平成8年度に実施された発掘調査の結果、平安時代に盗掘されているものの、複室構造の板石組横穴式石室に漆塗木棺が安置されていたことが判りました。また、金銅製冠飾、銀製冠、透かし彫り飾り金具等の装身具類、銀装振り環頭大刀、小刀、金銅製環付足金物大刀、金装弓、鉄鎌等の武器類、鉄製挂甲小札、胡録金具馬具、刀子、斧、釘等、貴重な遺物が数多く出土し、平成21年3月17日には浅間山古墳石室出土遺物として千葉県の有形文化財（考古資料）に指定されました。

石室に用いられた筑波山系片岩は、今の利根川から霞ヶ浦にかけて広がっていた香取の海を利用した水上交通でもたらされたものと思われ、切石積の岩屋古墳とは異なりますが、石室の構造が類似していることから、浅間山古墳は岩屋古墳に先行して築造された首長墓と考えられています。

栄町教育委員会

NPO法人 栄町観光協会

※この案内板は平成20年度伝統文化支援・保存事業として財団法人 成田国際空港振興協会・NAAグループの協力で設置されました。

香取の海



インターネットより

このあたりは龍角寺という地名



前方が龍角寺









龍角寺

龍角寺は雨請祈禱あまごいさとうで知られますが、その昔大旱魃かんぼつの年に竜神が自分の身を三つに切ってまで人々を助け、その二本の角の生えた頭を納めて龍角寺と名付けられました。

現在、白鳳時代はくほう（七世紀後半～八世紀初め）に建てられた建物は残っていませんが、本尊の銅造薬師如来坐像（重要文化財）と境内の塔跡（史跡）のほか、屋根しびの瓦や鴟尾が当時のものとして残っています。

環境省・千葉県

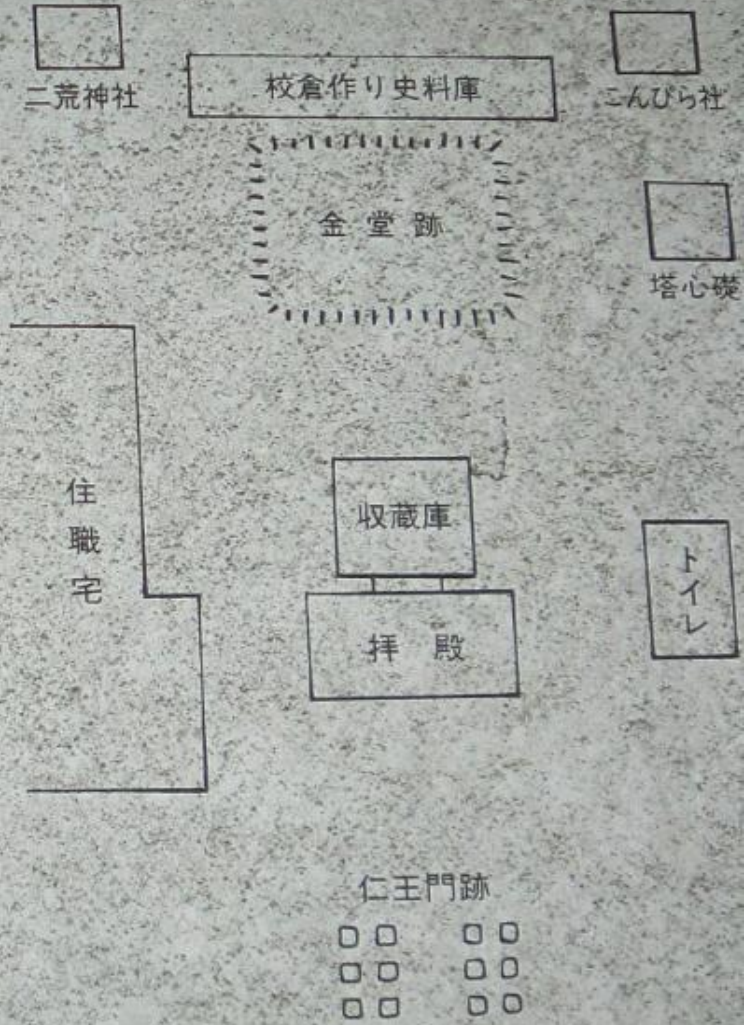


龍角寺

Ryukakuji Temple

709年に竜女化来し、一夜のうちに諸堂を建立したと伝えられる、関東地方で最も古い寺院の一つです。当時は東に高さ33m程の三重の塔とも五重の塔とも推考される塔がありました。本尊の薬師如来坐像(国指定重要文化財)は709年につくられた本県最古の白鳳時代のものです。そのほか境内より出土した奈良時代前期の銅製経筒や布目瓦(県指定文化財)などの文化財があります。

It is said that, in 709, a dragon lady appeared and built up many halls of the temple in one night. The temple is one of the oldest in the Kanto District. At that time there was a 33-meter tall tower in the east, which was considered to be a three- or five-story pagoda. It is also said that water gathered in the cavity of the central stone of the tower (a trace of the tower pole exists) has increased in quantity neither by heavy rain nor in dry weather, so that the stone has been called the "Stone That Never Increases and of Immortality." The seated figure of the Yakushi Trinity, namely, Yakushi Nyorai (National Important Cultural Property) dates back to 709, and is the oldest one in the Chiba Prefecture. In addition, the temple has the cultural properties, such as the copper tubes for sutras and "Nunome" tiles (Prefecture-designated Cultural Properties) from the early Nara Era, which were excavated in the temple precincts.



栄町

龍 角 寺

和同2年(709)の開基と伝えられています。その昔、大早魃の年に竜神が自分の身を三つに切つてまで人々を助け、その頭を納めたことから名付けられたといひます。

本尊の薬師如来座像は、白鳳仏で千葉県内では最古のものです。かつては多くの参拝者でにぎわったということです。たびたびの火災で建物が消失し、本堂跡、仁王門跡、塔跡などがありし日をしのぶことができます。

仁王門跡の礎石









現在の本堂



この部分はRC造







これが鴟尾？（無造作に置かれている）



金堂跡の基壇と礎石





金堂跡



龍角寺相像図 画：佐藤喜一郎









塔跡(石が倒れているのは今回の震災の影響)







「不増・不減の石」

FUZŌ・FUMET NO ISHI

三重の塔の中心礎の石にたまった水は、大雨でも日照りでも増減しなかったといわれています。

The legend says that water gathered in depressions on the foundation stone of a tower in the temple never increased nor decreased even in heavy rain or in a dry season.

心礎の石





古瓦保存塚/この盛り上りに瓦が埋まっているという



校倉造風の資料庫



二荒神社



今回の震災の影響で転げ落ちているため、ロープを張って立ち入り禁止となっている



一日も早い修復が望まれる



元の道に戻り、バスにて安食駅に向かう



一時間に一本なので、乗り遅れないように注意



安食駅



龍角寺・房総のむら ー古代マップー

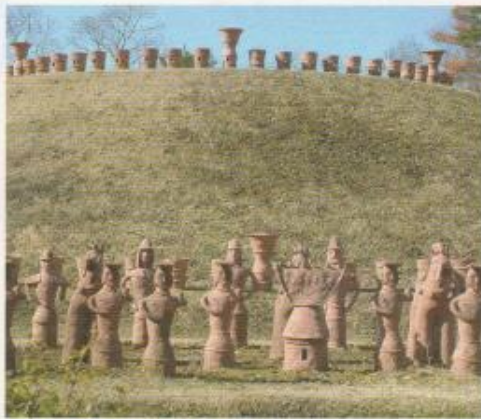


龍角寺・房総のむら

—古代あんない—

竜角寺古墳群

前方後円墳37基・円墳71基・方墳6基からなる旧下総国最大の古墳群です。印旛国造の奥津城と考えられています。現在、風土記の丘として整備され、群集する古墳を見学いただけます。また風土記の丘資料館では出土遺物等もご覧いただけます。



竜角寺古墳群101号墳

6世紀前葉に造られ、7世紀初頭まで埋葬が行われた、二重周溝をもつ墳丘径約25mの円墳です。人物・動物・家形埴輪が発見され、当時の埴輪を立ち並べた様子が復元されています。



岩屋古墳

1辺約79m、高さ約13mの三段築成の方墳です。方墳としては東国最大、同時期の天皇陵に匹敵する墳丘規模です。横穴式石室が2基並んで開口しています。貝化石を含む凝灰質砂岩の切石を積んだ石室です。築造は7世紀前半と考えられています。



(千葉県立中央博物館所蔵)

浅間山古墳

墳丘全長約78mの竜角寺古墳群最大の前方後円墳です。横穴式石室は筑波山麓産の片岩を組んだものです。石室内部は全長6.6mもあり、この種の石室としては県内最大です。金銅製飾馬具や金・銀製冠飾などが発見されています。7世紀初頭に古墳が造られ、中葉まで副葬されたと考えられています。



東に塔、西に金堂を配した古代伽藍から、連綿と法灯が続く寺院です。出土した古代の屋



(写真提供:千葉県教育委員会)

龍角寺

根瓦は7世紀後半に造られたもので、県内最古の瓦です。塔跡は国史跡に指定されています。塔跡付近からは鎌倉時代に埋納された考えられる銅製経筒も出土しています。境内には古代から現在に至る様々な石造物が残り、龍角寺の長い歴史を知ることができます。

本尊 銅造薬師如来坐像

左手に薬壺を持ち、右手の五指を胸前に伸ばして、正面に向ける印を結び、結跏趺坐しています。東国に遡る白鳳仏としてとても貴重で、国の重要文化財に指定されています。像の高さは130cmですが、元禄5年(1692)火災にあったため首からは補鑄したものです。ただし台座の前面に裳が垂下している形などから、当初の形を倣っていると考えられます。



龍角寺瓦窯跡・五斗蒔瓦窯跡

龍角寺の屋根瓦を焼いた7世紀後半の窯跡です。この周辺の地名と考えられる「朝布(麻生)」「服止(羽鳥)」等とへら書きされた瓦がたくさん見つかりました。現在は埋め戻され、保存されています。



(写真提供:米町教育委員会)



埴生郡衙関連遺跡

掘立柱建物が建ち並ぶ、下総国埴生郡の古代役所跡が発見されました。唐三彩や碗・須恵器などが発見されています。

龍角寺尾上遺跡

土壘と溝の区画中から、7世紀中葉の一辺約5m、深さ3.3mの地下式木堂遺構が焼失状態で発見されました。類例がなく断定できませんが、埋葬前に長期間死者を弔う「瘞」遺構という説があり、注目される遺跡です。



(写真提供:米町教育委員会)

龍角寺・房総のむら

—江戸・明治あんない—



(龍角寺所蔵)

龍角寺 本堂跡(金堂跡)

和銅2年(709年)開基と伝えられていますが、出土した屋根瓦から、7世紀後半に創建が遡る旧下総国最古の寺院です。本尊葉師如来坐像をまつお堂の背後には現在、7世紀後半から昭和25年まで本堂(金堂)が建っていた基礎や礎石が残っています。写真は元禄年間(1688-1703)に造営し、昭和25年に解体された旧本堂です。



(龍角寺所蔵)

龍角寺 塔跡(国史跡)

径約2~2.5mの花崗岩の心礎です。心柱を据え舍利を納めた孔が開いています。周囲から一辺約12mの古代からの塔基壇が見つかっています。室町時代に三重塔があった記録が残っています。心礎の穴に溜まった水は大雨が降っても増えず、夏の日照りでも枯れることがないという「不増・不減の石」の伝説が残っています。

龍角寺住職入山式図 絵馬

明治25年に描かれた新住職を迎える入山式の絵馬です。艶やかな僧・稚児行列とともに、本堂や鐘楼・仁王門など当時の境内の様子が描かれています。現在、龍角寺周辺には寺域が広大であったことを示す伝承地(南大門・放光院等)や遙拝地を示す地名(花立山・拜台等)が残っています。



素羽鷹神社

万治2年(1659年)の棟札が残り、中世まで遡ると考えられる酒直の産土神です。龍角寺の天竺西方浄土の守護神として信仰を集めました。昔、雨を降らせた龍が三つに分かれて落ちた際に、頭がひっかかって燈火があがった龍燈懸掛の松がありました。現在は枯れてしまい、伝説だけが残っています。



龍角寺旧参道の塚群

坂田ヶ池の西端から亀の子池に至る道沿いに江戸時代の塚が147基確認されています。この道は、その頃の龍角寺参詣に使われた道で、庚申塔の石塔も見られます。塚を築くこと、石塔を立てることは功德を積むことです。厚い信仰を集めたことを示しています。

だいだらぼっちの足跡

現在の房総のむら駐車場の場所は昔、雨が降ると大きな水溜まりになったそうで、だいだらぼっちの足跡だと伝えられています。



亀の子池のおしゃぶき様

地獄の門番のおしゃぶき様の石造物が、亀の子池に遺されています。



木曳坂

印旛沼の津から材木を引き上げて、龍角寺を造ったと伝わる坂です。この坂を下った周辺には船戸という地名が残っています。



龍角寺伝説マップ



「房総風土記の丘資料館」参考ホームページ

<http://members.icom.home.ne.jp/okamoto.n/machi/chiba/bousouhudoki/bousouhudoki.html>

http://inoues.net/museum/bousou_museum.html

<http://inoues.net/ruins/bousou.html>

<http://www.chiba-muse.or.jp/MURA/profile/shiryoukan.html>

http://www.geocities.jp/jw_mura/kofunn/kofun08.htm

